

## 中学校 美術科 学習指導案

指導者 森長 俊六

- 日時** 平成30年11月9日(金) 第1限 8:40~9:30
- 場所** 美術教室
- 学年・組** 中学校1年B組40人(男子19人 女子21人)
- 題材** 絵文字で表そう
- 目標**
1. 絵文字に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。(美術への関心・意欲・態度)
  2. 豊かな発想で多くの構想を練ることができる。(発想や構想の能力)
  3. 伝えたい内容や意図を適切に表現できる。(創造的な技能)
  4. 友達との交流を通して、作品をより深く味わうことができる。(鑑賞の能力)

### 指導計画(全8時間)

第一次 課題の理解とアイデアの創出 1時間(本時)

第二次 アイデアの深化 2時間

第三次 下描き, 着彩 4時間

第四次 鑑賞会 1時間

### 授業について

絵文字は、文字の一部を絵に置き換えたり、文字全体を装飾・変形させたりして文字の持っている意味やイメージをより強く見る人に伝えようとするものである。自分の思いも込めながら見る人にもわかりやすく伝えることを楽しむことができる題材である。

このクラスは、中学生になって靴のデッサンを行い、形をきちんと捉える学習を行った。その後色彩に関する学習を行い、「〇〇な感じ」という平面構成を行った。二学期に入ってから、ピクトグラムのデザイン学習を行った。それぞれ集中して取り組み、真剣に制作することができる。しかし毎回、「アイデアが浮かばない」とか「もうこれでいい」と言って構想を練ることに対して追究の甘い生徒が見受けられる。この傾向は、このクラスに限ったことではなく、他の中学生や高校生においても構想段階でアイデアを膨らまそうとしない、いや、アイデアが浮かんでこないという生徒は少なくない。その点、様々な角度から発想する視点を具体的に示すことができるこの題材は、豊かな発想を生み出す糸口を提供できる題材である。

最初に先輩たちの作品を鑑賞させ、それらの作品がどのような課題として制作されているか考えさせる。その意図を理解した上で構想段階では、自分自身としっかり向き合い、自問自答しながら構想を練ることに重きを置く。一定の時間が経過したら他の人に意見を聞き、あるいは他の人の作品に対して感想を述べ合うなどの言語活動を取り入れることによって構想の深化を図りたい。また、ICT機器を活用することによって発想の視点やイメージを具体的に示しながら理解を促したい。

### 本時の目標

1. 絵文字に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。(美術への関心・意欲・態度)
2. 課題の趣旨を理解し、豊かな発想で多くの構想を練ることができる。(発想や構想の能力)

### 本時の評価規準(観点/方法)

1. 絵文字に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。/発表, 行動観察
2. 課題の趣旨を理解し、豊かな発想で多くの構想を練ることができる。/ワークシート

## 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	教師の活動と指導上の留意点
課題の理解 (10分)	○参考作品を見てどのような課題か考える。  課題 ・漢字の一部を絵に置き換えて漢字の意味をより強調する。 課題条件 ・作品は15×15cmの画用紙に描く(作品自体は12×12cm以内) ・漢字部分はレタリングする。 ・色数は制限無し。 ・台紙の色を選択できる。など	・参考作品を見せながら、今回は、どのような課題で、どのような条件の元で制作されているのか考えさせる。  ・クイズ形式を取り入れながら興味を持たせる。  ・明朝体もしくはゴシック体を用いる。 ・台紙の色も作品を引き立たせるツール(作品の一部)である。
アイデアの創出 (25分)	○ワークシートに構想を練る。 ・思いつく漢字を絵文字にする。  ○参考作品をどのような基準で分類しているか考え、アイデアを生み出すヒントにする。 ・品詞を意識しながら ・動物・昆虫・植物などから	・ワークシートを配付する。 ・できるだけたくさんアイデアを考えさせる。 ・配色もイメージしながら考えさせる。 ・ユーモアやウィットを感じさせるものもよい ・途中、構想を生み出すヒントを提示する。 ・参考作品を品詞による分類をして何によって分けているか考えさせる。 ・直接的な表現もよいが、少し考えさせるものもよい。
意見・考えの交流 (グループ活動) (10分)	○課題や課題条件を踏まえ、グループ内で発表し合う。 ・文字(偏や旁)と絵の組み合わせを再考する。 ・書体や絵柄でより明快にするにはどうするか。	・一人では気付かなかったことに気付く、他者との意見の交流を通して新しい見方や感じ方考え方を深めさせる。 ・他者のアイデアに積極的にアドバイスさせる。
まとめ(5分)	○課題や条件の確認 ○話し合いの成果を踏まえアイデアをふくらませる。	
<b>準備物</b> 生徒：教科書（日本文教出版）、副読本（秀学社）、クロッキー帳、漢字辞典 教師：参考作品、ワークシート、電子黒板、書画カメラ、大型TV		



## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善を試みた。従来であれば、課題をこちらから示して説明していたが、先輩達の作品を提示し、どのような課題かを生徒が推察するというスタイルで始めたことである。また、課題条件はどのようなものかも考えさせた。一方的に指示されるのではなく、自分たちで探究していくというスタンスになることを狙った。ヒントを出しながらクイズ形式で興味を持たせようとしたが、制作の条件と提出の条件が混ざっていたので生徒はどのように答えて良いのかわかりにくい部分があったと反省している。

ワークシートに関しては、ただのマス目しか印刷されていないものなので本来はクロッキー帳を使わせても良いようなものだが、クロッキー帳に多くのアイデアをかくという習慣が出来ていないため、あのような形で慣れさせようとしている。あれだと4列目までは最低考えましようと言えば8個×4列で32個考えたことになる。発想の過程も重要であることを身に付けさせたい。ちなみに32個は最低ラインで、7列の56個ぐらい考えられると良いね、1枚全ての11列88個考えられると最高だね、ということ提示している。4列、7列が太いラインになっているのは、そういう意味である。

今日は研究授業ということもあり、1時間で完結させるよう計画したが、実際にはアイデアの創出という部分はもっとしっかり時間をとらなければならない部分である。今日は煮詰まってない状態のままグループで見せ合う結果となってしまった。

### 2. 研究協議より

・アイデアは頭で思い浮かべながら考えを進めるのではなく、描きとどめていかないとダメだという説明をされていたが、音楽でも全く一緒に、創作の場面では頭で考えるだけでなく、まず音にしてみようということがある。

→頭で思い描いて次々と上書きしていくと以前のアイデアが形として残らない。同じことの繰り返しになり進展しない危険性もあり、過程としてのアイデアを振り返ることによって新しい発想のものが生まれることもある。なので描かせるということは大事だと思う。

・背景(台紙)の色も選べるという話だったが、いつの段階で選ぶことができるのか。

→20~30種類の色画用紙(各色数枚)を教卓に用意しておき、作品部分が仕上がった段階で実際に色画用紙の上に置いてみて確認させ、イメージに合った台紙を選ばせるようにしている。

・生徒はアイデアが決まったら下描きや色塗りの段階へ独自の判断で進むのか。

→アイデアスケッチ、下描き、色塗りなど、次へ進む前には必ず見せに来させるようにしている。生徒の思いも大切にしながらのアドバイスをこころがけている。

・生徒がとても静かに集中して授業を受けていた。先生もとてもリラックスして、余裕を持って授業されていた。

・男女混合グループでの相互評価は、これまでも頻繁にされていたのか。

→新指導要領のことが話題になり始めた昨年頃から意識して増やすようにしている。

・グループによっては活発であったり、消極的であったりするが、そういう場合どうするのか。

→見て回りながら声かけをしている。このクラスでは男子列女子列の座席のため男子女子が正面同士で向き合う形になるが、本来なら男子2人女子2人が向き合うときクロスする座席が望ましいと言う研究者がおられる。理由は異性の会話に割って入る形になり、男子同士・女子同士のみの会話を避けられるという理由。ただ、充実した話し合い活動は、美術の授業だけで完成するものではなく、学校全体の全ての授業や学級活動で培われるものだと考えている。